

令和 3 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム ほほえみ（すずらん）

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393100219		
法人名	株式会社 海山会		
事業所名	グループホーム ほほえみ（すずらん）		
所在地	〒028-7911 九戸郡洋野町種市41-15-2		
自己評価作成日	令和3年11月15日	評価結果市町村受理日	令和4年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療的ケア研修参加や、特別浴槽の設置等により重度の利用者様の受け入れも積極的に行っている。また、看取りケアにも重点をおき、利用者様やご家族様が希望する最後を迎えられるように、内部研修等を行っている。コロナの影響で面会制限を行っている状況であったため、利用者様の状態の変化や情報を今まで以上に報告し、ご家族様に安心して頂けるように心がけている。また、外出行事もほとんど出来なかったため、事業所内で行えるレクや行事等を工夫し、利用者様が退屈しないように支援している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は洋野町の北部、青森県八戸市に近接して太平洋を望む高台に立地しており、開設から4年を経過して、コロナ禍の中にあっても地域との交流や連携を目指す意欲溢れる事業所である。平成24年から小規模多機能施設の運営を開始して地域の中で介護支援を展開しながら、ホームでは積極的に介護度の重い利用者の受入れに取組んでいる。この中で、目標の一つとしていた看取りの取組みについては、町内の協力医の支援を得て今年度から取組みを始め、家族からの評価も高いものがある。地域貢献の一つとして、部落に出かけての「100歳健康体操」も継続して行っており、地域の方からは畑作りの支援を受けるなど、地域との良好な関係を構築しており、コロナ禍が解消されれば一層の交流活動が大いに期待できる。夜間避難訓練は、暗くなる10月の夕方に実施するなど、実践的であり、地域の協力者も10人以上となるなど、防災拠点としての役割も担う地域の拠点ともなっている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年1月21日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ほほえみ (すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念について、職員がどのように解釈し、ケアに生かしているのかを、会議等で適宜に確認している。	理念である「安心、安らぎ、真心」に基づき、ユニット共通の年間目標を定め介護に取り組んでいる。申し送りや会議などで、日々の実践場面を振り返り、理念が支援に活かされているかを話し合っており、実践につながるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナの影響で行っていないも、以前は100歳体操や認知症カフェの会場として開放し、地域との交流を行っていた。	コロナ禍で地域との交流は自粛している。グループホームに畑があり、近所の4~5名の方々が来て畑仕事をしている。コロナ禍でも入居者との接触が無いので自由に出入りして作業している。入居者は、育った野菜を収穫し食べている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェや包括支援センター協力のもと、認知症の方への声かけ訓練等を地域住民地一緒に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	コロナの為現在は資料配布のみとしている。会議では民生委員の方や包括支援センターの職員から助言や意見を頂き、会議等で職員へ伝えている。	コロナ禍の状況から、令和3年8月と10月は書面開催とし、6月と12月は集合での委員会開催を行っている。委員会開催時の意見や指摘事項は、朝の申し送りや職員会議などで職員に伝えサービスに反映するようにしている。	集合開催できない場合は書面開催として、資料送付に止まらずに意見や質問を書面で受け取る工夫を行うことで、委員と意思疎通ができると思われるので、そのような改善を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日ごろから情報共有を行っている。また、町主催の研修会にも積極的に参加し、協力関係を築けるように心がけている。	コロナ禍で中断しているが、地域に出向き「百歳体操」や認知症の方への「声掛け訓練」の講師の依頼を受け対応していた。また、「認知症高齢者SOSネットワーク」を立ち上げに経営者が関わっている。町担当課とは密に連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の職員会議で、身体拘束委員会を中心に、拘束や虐待について話し合いを行っている。また、拘束にあたいするケアがあった場合は管理者から注意を行っている。	両ユニットの管理者と職員5名で構成される「身体拘束廃止委員会」を3カ月毎に開催し、ドラックロック、スピーチロック、フィジカルロックの項目で振り返りを行っている。話し合いの結果は、職員会議で職員に周知している。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ほほえみ (すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	毎月の職員会議で、身体拘束委員会を中心に、拘束や虐待について話し合いを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部講師による研修や内部研修等で定期的に研修を行っている。制度を利用する必要がある場合は、関係者と話し合いを行うようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明は、出来るだけわかりやすいように行っている。また、改定時は口頭での説明と文章での説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族へは運営推進会議や面会の際に、職員には職員会議の際に意見等を伝え、必要時は職員間で検討を行っている。	マンツーマンで入浴介助の時に聞いたり、担当者が話を聞いたりしている。入居者が、管理者や職員に、意見や思いを伝えられ、運営に反映されている。家族とは、毎月の利用料の支払いや面会などの時に近況報告を行い意見要望に対応している。	家族への情報提供と理解促進の手段として、利用者の様子を伝える「お便り」や、数か月毎の広報の送付も有意義であると思われるので、その作成について検討されるよう期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の給料明細を渡す際や、年に2回の個人面談を行っている。また、普段から風通しの良い職場に出来るように心がけている。	日々のミーティングや毎月の職員会議・ケア会議、ユニット合同での6委員会を設けており、経営者・管理者と職員が話し合ったり情報交換を行う場となっている。必要な支援を柔軟に提供するために、一緒に話し合いながら運営している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員から勤務時間や日数の希望を聞き出来るだけ希望に沿った勤務内容にしている。また、年1回の昇給や誕生日、Xmasには職員へささやかではあるも、プレゼントを渡している。		

事業所名 : グループホーム ほほえみ (すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得に向けての金銭的な援助や、年間の個人研修計画等を立ててもらい、自分のペースで学習できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括主催の研修会などのはあるも、事業所が主体となる勉強会等は開催できていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前には必ず調査に行き、ご本人様、ご家族様、担当ケアマネから話を聞き、出来るだけ要望に応えられるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前には必ず調査に行き、ご本人様、ご家族様、担当ケアマネから話を聞き、出来るだけ要望に応えられるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様のADL状況や、ご家族様の介護力、金銭的なものを総合的に判断し、助言等を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	声がけや対応が上から目線にならないように、職員会議などで接し方や態度について見つめ直す機会を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の生活歴や趣味、思い出話など聞き家族様との関係が途切れないよう、面会や通院時など職員が間に入り、情報共有している。		

事業所名 : グループホーム ほほえみ (すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ流行に伴い遠方の方の面会を断る期間があった。町内在住の方や、コロナワクチン接種証明書を持示して頂きながら面会緩和や電話での支援をした。	新型コロナなど感染予防対応を図りながら、面会制限が無い方には、面会を実施している。また、ドライブでは、以前働いた職場近くに行ったり、自宅の近くに行っている。馴染みの所を見ながらドライブを楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係を把握、共有し食席やレク時など職員の配置を気を付けている。孤立しないよう、見守りの偏りが出ないように声がけし全体で関わり合えるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移った場合も、定期的に状況確認を行っている。コロナ前は、入院中に面会等に行き状況の確認を行っていた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様からの意向を聞き継続できるよう支援しているも不十分である。	入居者の思いや意向は、お風呂場で聞く事ことが多い。話の流れで何気なく聞きながら、思いや意向などの把握に努めている。把握が困難な方は、表情や動きを気を付けて見て、口腔ケアや床ずれ防止の工夫などケアにつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や習慣を出来るだけ無くさないようサービス利用した施設や事業所に対応など聞き継続して出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員都合にならないように、その時その時の本人様の状態を確認しながら支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題の設定・より良いケアにつなげる為、家族の意向を聞き課題克服に努めている。また、必要な場合Dr.に相談し計画作成している。	介護計画の原案を家族に説明し承認をいただいてから、職員に計画内容を伝え介護を実施している。全職員が参加する毎月のケア会議で、介護計画の取り組み状況を話し合っており、必要に応じて、計画作成担当者が見直しを行っている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ほほえみ (すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	対応した内容や声がけなど特記事項に記入し申し送りの徹底・情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ流行前は、家族との外出等柔軟に対応していた。現在家族や、利用者からの希望はないが、ニーズが合った場合は柔軟に対応していきたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	インフォーマルサービスの把握が不十分であり、うまく利用できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族に説明を行い往診または、かかりつけ医への受診希望を確認し、希望に沿った医療を受けられるよう支援している。	両ユニット併せて、協力医療機関と訪問診療を行っているクリニックを利用している。そのほか、12～13名の方は、八戸市の認知症専門の病院を受診している。受診介助は職員が対応しており、その都度家族に結果を報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で状態の変化や気づきを、スタッフ間で話し合い、必要な場合は適切な受診やケアを受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関との情報交換を行い、本人及び家族が安心して入院治療を受けられるよう支援し、退院後の生活での注意する点等の情報を得たり、相談をするよう努めている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ほほえみ (すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人及び家族の意向を確認し、状態の変化に伴い再度治療方針等について話し合いを行い、事業所でできる事を支援している。必要な場合は、地域の関係者と連携して支援している。	入居時に、医療を必要としない限り、当事業所で極力支援することなど、指針を用いて説明し同意を得ている。状態の変化があった場合には、再度話し合い方針の共有を図っている。令和3年度は3名の入居者を看取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の避難訓練を実施し急変時や心肺蘇生法の講習を行い、全職員で対応できるように行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルの作成や年2回の避難訓練時にも発電機の使用方法等の確認をしている。地域協力隊とも訓練に参加していただき協力体制を築いている。	年2回、定期的に小規模多機能ホームと合同で火災避難訓練を実施している。令和3年10月には、17時から夜間想定訓練を行っており、地域防災協力隊18名の参加を得ている。災害対応として、自家発電装置や食料、介護用品などを準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	重度の利用者様が多いため、発話が困難な利用者様に対しては、特に気を付けている。また、一人一人を尊重し職員会議などでスピーチロックなど確認し合い声がけに気を付けている。	職員の対応が、利用者の誇りやプライバシーを損ねるものにならないために、管理者やリーダー職員が個別面談で指導・注意を行ったり、事業所全体に関わることは、職員会議で話し合い、改善に向けた取り組みを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	自ら希望を訴える事が出来るy利用者様は少ないものの、出来るだけ職員の決めつけが無いように普段からの声がけに気を付けて対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全ての希望通りに支援出来ていないが、一人一人のペースや施設内でできる範囲内での支援に努めている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ほほえみ (すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型や服装など本人が希望したり職員が工夫をし支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事委員会を会中心に一人一人にあった食事形態での提供をしており、出来る方には後片付け等手伝っていただいている。不定期ではあるがバイキング形式にし食べたいメニューを選んでいただいたりし食べる事を楽しんで頂けるよう努めている。	平均介護度が高いため、食事委員会において好みや栄養バランス、身体機能に配慮し、食事を提供している。美味しいものを楽しく食べるため、地域の方から旬のものを頂いたり、時にはバイキング形式での食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事委員会が作成するメニューを基本に栄養バランス、摂取量、好み等を検討の上、食事を提供するほか、適宜お茶等の水分補給を行っている。また、摂取量が極端に少ない場合は食事管理表に経過を記録し、利用者の状態に合わせた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食時口腔ケアを行い、個々の能力に応じて支援を行っている。 口腔ケアの方法なども状況に合わせて行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時や定時外でもトイレへの声がけをしパット等汚染ないか確認している。オムツ交換の時間以外でも尿意・便意あり汚染あった際はすぐに交換している。	チェック表で排泄の状況を把握し、習慣や状況に応じた排泄介護用品の使い方や水分補給、また、日中の歩行活動などの対応につなげている。失禁があった場合には心情に配慮し、さりげない声掛けで対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然に排泄出来るよう食物繊維や乳製品等を摂っていただいている。便秘が続くようならDr.に相談し指示を仰いでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日の希望は難しい部分があり、決めているが時間帯は都合が悪い時間を避け、個々のタイミングをみて声がけし入浴して頂いている。入浴剤を使用し楽しんで頂いている。	寝たまま入浴できる浴槽、座ったまま入浴できる浴槽、一般浴槽の3種類を整備し使い分けしている。週2回の入浴を基本とし30~40分程度掛け、くつろいだ気分でゆっくりと入浴しており、職員との会話や変わり湯を楽しんでいる。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ほほえみ (すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	レクや行事などの兼ね合いや生活習慣など昼夜逆転に気をつけ質の良い睡眠がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で情報・用量等について理解できるように、変更があった場合等、症状の変化の発見に努めている。服薬時は、職員間での声かけ・ダブルチェックを行い確実に服薬援助できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	重度の利用者様が多く、作品作り等は難しいため、体操やドライブ、お菓子などのおやつ等で気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ流行に伴い外出は控える傾向にあった。ドライブ(花見・紅葉など)の実施で気分転換をはかった。 一人一人の希望に沿った外出は出来なかった。	コロナ禍で外出の機会が減少しているが、天気の良い日は、戸外に出てゆっくりと散歩したり、椅子を出しおやつを食べたりしている。また、1時間位のミニドライブで、昔働いていた缶詰工場や自宅付近などを見に出掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や本人希望時におよつもの購入など支援している。 同意を得て事務所にて金銭管理は行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望時や家族希望時に電話や手紙の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節度とにホールや玄関の装飾を変え、季節感を楽しんでもらっている。	建物内の空調はエアコンで管理しており、浴室には床暖房を設置している。建物内は、清掃も行き届き清潔感がある。そして、ホールや玄関には、季節ごとに入居者の作品を飾るなど、季節感を取入れ暮らしの場を整えている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ほほえみ (すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者間の関係を把握し、一人一人にあった居場所づくりをしている。 ホールにソファを置きゆっくりできるスペースもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が居心地よく過ごせるように自宅での環境づくりに努めている。	居室には、電動ベッドや小ダンス、収納クローゼットを備え付けている。壁にはホワイトボードを設置しており、コメントを書き入れたり、写真を貼るなど利用者、家族とのコミュニケーションづくりに活かしている。個別に応じた部屋作りとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険な所は職員間で情報共有し、利用者様が安全に安心して生活を送れるように状況に合わせた環境づくりに努めている。		